



エグリトビケラ (*Nemotaulius admorsus*)

エグリトビケラ科

5月の連休の頃、林に囲まれた、ため池の水際で数匹のエグリトビケラが枯れたススキの葉や茎に止まっている姿を見つけました。幼虫は、切り取った枯葉を綴った扁平な筒巢に入り、池の底を蓑虫のように這い歩きます。水中の枯葉などを食べて育つ水生昆虫です。翅を開くと6cmくらいの大きなトビケラで、北海道から九州、ユーラシア大陸に分布します。

写真は、須加院地区の円堂谷池で撮影しました。



アオモンイトトンボ (*Ischnura senegalensis*)

イトトンボ科

北海道から沖縄にかけて広く分布するイトトンボです。ため池や河川の、水のある場所からあまり離れずに、ひっそりと生息しています。

小さなため池は、利用されなくなると、周囲の樹木が生い茂り薄暗くなって、沢山の落ち葉がたまります。

写真のアオモンイトトンボは、そのような、魚や水草が住みづらくなった、ため池で見つけました。

写真は、溝口地区の須茂谷奥の池で撮影しました。



ウシガエル (*Lithobates catesbeianus*)

アカガエル科

原産は北アメリカで、1918年に食用として日本に持ち込まれました。今では日本全国の水辺に生息しています。体長が18cmにもなる非常に大きなカエルです。口に入る動物は全て食べるため、日本の在来の生物が減る恐れがあり、特定外来生物に指定されています。夜に牛のような大声で鳴くため、怪音の正体がかめられるまでは、人に恐れられました。

写真は、相坂地区の奥三谷中池で撮影しました。

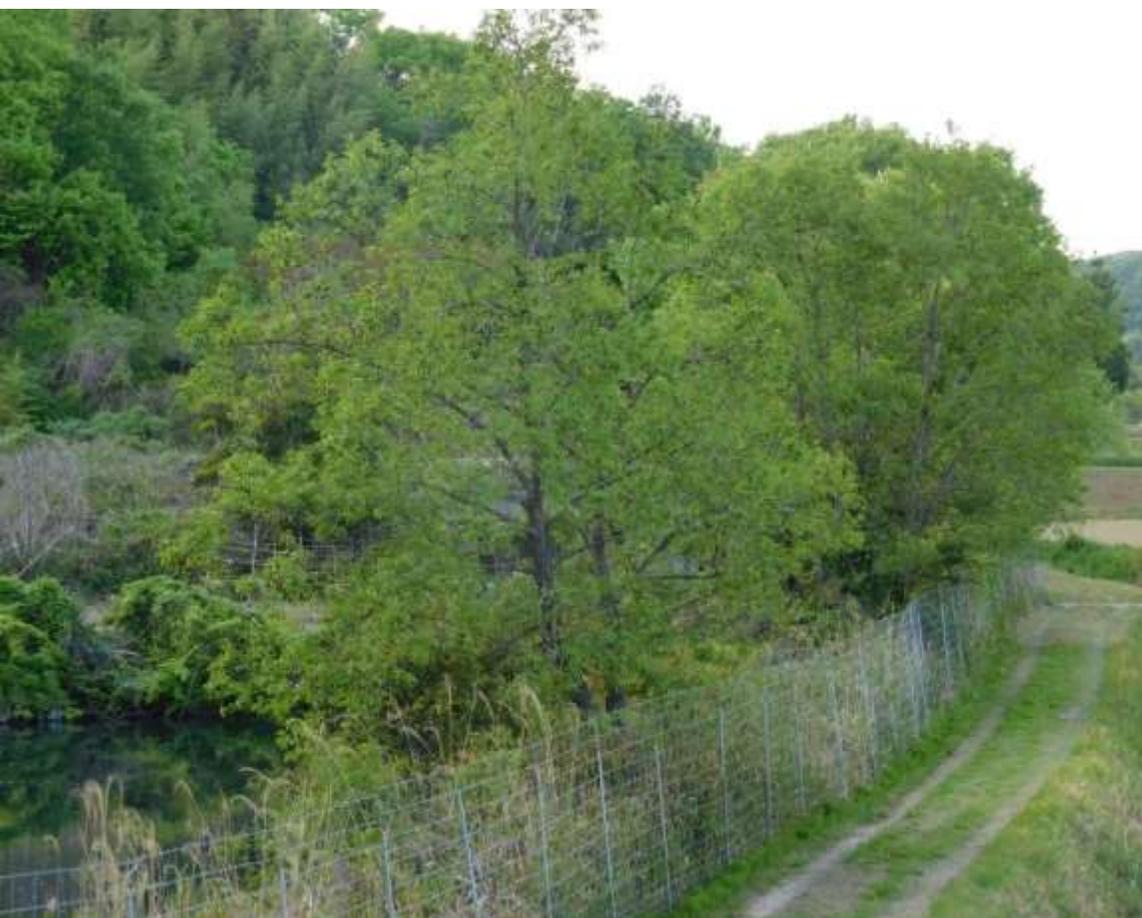


ショウブ (*Acorus calamus*) ショウブ科

独特の良い香りがする植物で、端午の節句にお風呂に浮かべるショウブ湯や、根茎を漢方薬とするなど、昔から利用されてきました。「万葉集」に、あやめぐさの名で記されていますが、アヤメ科の花菖蒲とは異なる植物です。

アジアから北米に広く分布し、日本では北海道から九州にかけて、浅い水辺に見られます。5月から7月頃に黄緑色の小さな花を咲かせます。

写真は、相坂地区の柳居谷池で撮影しました。



葉



幼虫の巣



幼虫



成虫



成虫雄

ハンノキ (*Alnus japonica*)

カバノキ科

ミドリシジミ (*Neozephyrus japonicus*) シジミチョウ科

ハンノキは、湿地に生える樹木です。ミドリシジミの幼虫はハンノキの葉を食べて育ちます。春に孵化した幼虫は、葉を折り曲げた巣の中で育ちます。6月には、キラキラと緑色に輝く蝶になって、樹上を飛翔します。日本には25種類のミドリシジミ類がいます。全て林の中に棲む蝶で、美しく、日本が世界に誇れる蝶たちです。

写真は、相坂地区の柳居谷池で撮影しました。